

A-20 北伊勢陸軍飛行場

対象学年・教科
小学校 6年社会科
中学校社会科：歴史的分野



第二期下士官候補者卒業 記念碑（画像パネル） [287×405]

北伊勢陸軍飛行場は、1941年（昭和16年）に各務原陸軍飛行学校分教所として開設されたのち、1943年（昭和18年）に明野陸軍飛行学校分教所と管理が変わりました。戦局が悪化した1944年（昭和19年）6月、明野教導飛行師団になります。碑には「第二期下士官候補者卒業記念碑/昭和十六年七月二十六日」とありますから、各務原陸軍飛行学校分教所時代のものであることがわかります。



観察池（画像パネル） [288×408]

今も川崎小学校にある池は、北伊勢陸軍飛行場の兵舎の前にあったものです。当時は防火用水も兼ねており、深かったそうです。終戦時、武器を隠したという言い伝えがあります。



北伊勢陸軍飛行場の陸軍 中島一式戦闘機（隼）（画像パネル） [285×404]

ト号整備の済んだ陸軍中島一式戦闘機（隼）です。ト号整備とは、飛行機の胴体の下に爆弾を整備できるようにすることです。



北伊勢陸軍飛行場格納庫内部と 中島九七式戦闘機（画像パネル） [285×407]

北伊勢陸軍飛行場の格納庫は、現在の川崎小学校の北側に9棟並んでいました。写真の中島九七式戦闘機は特攻訓練に使用されることが多かったようです。



掩体(掩体壕) 鈴鹿市三畑町 [259×408] (画像パネル)

『三重の戦争遺跡』
(平成18年刊 三重県歴史教育者協議会編より)

掩体とは飛行機を敵の航空機による攻撃から守るための格納庫です。北伊勢陸軍飛行場の周辺にはたくさん作られていました。写真から、掩体がコンクリートで作られたかまぼこ型であることがわかります。



川崎小学校正門(画像パネル) [286×408]

普段閉じられている川崎小学校の正門は、北伊勢陸軍飛行場の兵舎の正門がそのまま使われています。当時は正門から、今も残る庭園を通して玄関に道が続いていました。



国土地理院昭和22年川崎小学校 周辺航空写真(画像パネル) [275×396]

終戦となる1945年(昭和20年)までに、北伊勢陸軍飛行場周辺には滑走路や掩体への誘導路がつくられていました。しかし、1947年(昭和22年)に撮影されたこの空中写真をみると、それらは痕跡が残るのみで、既に格納庫などはなくなっていたことがわかります。



1950年(昭和25年)の運動会の様子 [285×407] (画像パネル)

川崎小学校の沿革史によると1946年(昭和21年)に川崎村国民学校は兵舎を校舎として使用する許可を得て、川崎村県屋敷から現在地に移転しました。そして翌1937年(昭和22年)の学制改革により、いまの川崎小学校になりました。写真は、1950年(昭和25年)に川崎小学校で行われた運動会の様子を撮ったもので、後ろに写っている校舎は北伊勢陸軍飛行学校時代の兵舎です。

北伊勢陸軍飛行場 CD画像データ

- ・『三重の戦争遺跡』63頁掲載 アメリカ軍の爆撃目標地図
- ・館蔵鉄兜
- ・川崎小学校所蔵鉄兜
- ・国土地理院昭和22年川崎小学校周辺航空写真(アメリカ)